

令和7年7月10日

2024年度学校関係者評価報告書

大阪文化服装学院

本学では、教育の質保証と継続的な改善を目的として「2024年度自己評価報告書」をもとに、産業界関係者、教育関係者、卒業生、学生支援者による学校関係者評価委員会を開催いたしました。その結果を以下の通り報告いたします。

1.2024年度学校関係者評価委員会出席者

〈委員〉(五十音別)

糸井弘一氏 協同組合関西ファッション連合
岩光栄太郎氏 株式会社ベストリア 当学院卒業生
小林義歩氏 マツオインターナショナル株式会社
片岡敏哲氏 大阪府立泉尾高等学校
河野あゆみ氏 株式会社エーツー
大黒正人氏 教育支援者
萩原直樹氏 株式会社アーバンリサーチ

2.学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2025年7月2日(水)14時～15時45分

場所：大阪文化服装学院 南館図書室 (一部参加者はオンラインで出席)

3.学校関係者評価委員会の実施方法

2024年度の自己評価報告書をもとに、基準項目の中項目ごとに自己評価した要点及び、基準項目ごとに評価した4段階(適切、ほぼ適切、やや不適切、不適切)の自己判定結果を報告・説明し、各委員か

らご意見をいただきました。その結果、自己評価について、委員のみなさんからの異論はありませんでした。委員会では委員のみなさんから多数の質問や意見をいただきましたので、その回答も含めて報告させていただきます。

自己評価	課題・改善案及び 評価に係る質問・意見等
<p>1. 教育理念・目標</p> <p>【適切に対応できている】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 理念・目的（ビジョン）・育成人材像は明文化されており、学生・保護者・教職員・学外に対してもHP やパンフレットを通して周知できている。 ▪ 目標とする「大阪文化服装学院像」を定めており、学校における職業教育の特色も明確にしている。（世界標準のアイデアクリエイション×世界一精緻な制作術） 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 学校の教育理念や目標に関しては明文化し社内外に向けて公表し、適切に対応しているが、2026 年 4 月の校名変更に合わせて、次代を見据えた内容に精査、再検討していくことが必要。 <p>【改善方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 2025 年度中に学内で検討を重ね、次代を見据えた学校の教育理念や目標を再策定し、理事会等でも承認を得、社内外に公表し周知徹底をはかる。 <p>【質問・意見・回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「ヴォートレイルファッションアカデミー」に校名変更するが、短縮読みではどのように呼ばれたいか。 ⇒「ヴォートレ」と呼ばれたい。覚えにくい名前といわれているので、数年後には「ヴォートレ」の愛称で定着させたい。
<p>2. 学校運営</p> <p>【ほぼ適切に対応できている】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 教育方針に沿った運営方針を年に一度策定し、教職員に対して職員会議・学院会議・講師会等で周知徹底している。 ▪ 運営方針に沿った事業計画を年に一度策定している。 ▪ 中期経営計画は 2023 年度をもって一旦総括し、2024 年以降は中期ビジョンにもとづいた単年度方針を策定し、スピード感のある学校運営にシフトしている。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 授業評価の実施・評価体制の再検討と実行プランの策定（現状、学生アンケートは実施しているが、授業ごとの評価の実施や評価体制が不十分なため） <p>【改善方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 2025 年前期には、授業評価の実施・評価体制の実行プランを策定し、2025 年後期から全授業を対象に運用し、教員へのフィードバック体制も整えていく。

<ul style="list-style-type: none"> ▪ 組織運営の各評価項目に関しては、すべて適切に対応できている。 ▪ 授業ごとの評価の実施・評価体制作りは今後の課題、その他各評価項目は適切に対応できている。 ▪ 人事・給与制度の各評価項目に関して、すべて適切に対応できている。 ▪ ICT 推進担当も設置し、日々デジタル化による業務の効率化に取り組んでいる。 	<p>【質問・意見・回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ デジタル化の具体的な推進例を教えてください。 <p>⇒パソコンを活用したペーパーレス化の推進（会議、共有資料、学生への告知等）や卒業生ネットワークのオンライン化、在宅勤務でできる ICT 環境の整備等を推進している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 学生アンケートに関する評価が低いのが気になった。 <p>⇒大まかな学生アンケートは実施しているが、授業ごとにアンケートをとり、結果を教員にフィードバックする体制が整っていないので辛めの自己評価をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 退学者が減少したことに対する教職員への評価はしているのか。 <p>⇒退学者低減プロジェクトを立ち上げ取り組んできた。メンバーには今回の成果に対して報奨金を支給することで評価している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 教員の年齢構成について配慮しているか。 <p>⇒現状は 40－50 代の教員が多く危機感を持っている。今後は年齢分布を考慮しながら採用計画を立てていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 18 歳人口の減少に伴い入学生が減少していくことは意識しているのか。 <p>⇒している。今回の校名変更も日本でファッションを学ぶならこの学校と明確に示すための校名変更である。</p>
<p>3. 教育活動</p> <p>【ほぼ適切に対応できている】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 学科や新コースの創設等、常にアップデートを図っており、時代のニーズや当校の強みを生かした教育課程内容に編成し実践している。 ▪ 年間約 30 件の多彩な産学連携企画や国内外 20 名超の著名人による特別講義の実施などを通して、時代のニーズに即した実践的なカリキュラム内容に常にアップデートを図っている。 ▪ 成績評価や単位認定等の基準は明確に定められて 	<p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学校運営での課題同様、授業評価の実施・評価体制の再検討と実行プランの策定（現状、学生アンケートは実施しているが、授業ごとの評価に実施や評価体制が不十分なため） ②リメディアル教育の強化。 <p>【改善方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①に関しては、2025 年前期には、授業評価の

おり、学生や保護者に対しても提示され、適切に進級や卒業の判定をしている。

- パターンメイキング技術等ファッション検定の取得に積極的に取り組んでいる。

- キャリア支援課を設置し、卒業後のキャリアプランを積極的に支援している。

過去3年の①求職率と②就職率

2025年3月卒業生①74.9%②97.1%

2024年3月卒業生①79.9%②94.6%

2023年3月卒業生①65.1%②85.3%

実施・評価体制の実行プランを策定し、2025年後期から全授業を対象に運用し、教員へのフィードバック体制も整えていく。

②に関しては、基本的なパソコンスキルを習得できていない新生が多いため、入学前のパソコンスキル研修の実行プランを策定し、2026年入学生より運用していく。

【質問・意見・回答】

- 各授業の評価は現状どのように取り組んでいるのか。

⇒前後期ごとに学生アンケートに回答してもらい、問題点があれば担任が確認しカウンセリングに活かしている。ただ授業ごとに学生に評価してもらい教員にフィードバックする体制はできていない。

- 成績評価はどのようにしているのか。

⇒点数ごとにABCDEFランクで評価している。評価には、作品・提出物、テストなども加味している。

⇒学校教育法が改正され、専門学校も時間制から単位性に移行する必要があり、令和9年に向けての見直しが課題となっている。

- 進級・卒業の判定はどうなっているのか。

⇒学科ごとに授業内容は異なるが、1教科につき欠点4つで赤点となり進級・卒業できない。また25%欠席すると進級・卒業できない制度となっている。

- 学校の目標は就職率だが、企業や親が求めるのは定着率である。入社後数年定着するような教育が必要ではないか。

⇒まさにそのように考えている。定着率に関しては企業も個人情報の観点から開示されていないが、当学院も企業の要望を吸収し、社会が求める基準を満たす人材教育に注力していきたい。

- 息子はファッションと関係のない高校からスーパーデザイナー学科へ入学したが、他の学生は服飾系高校の出身なのか。

	<p>⇒服飾科のある学校は少なく、ほとんどの入学生は服飾未経験者である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ その点を在学生在が説明してあげれば入学しやすくなるのでは。 <p>⇒オープンキャンパスではほとんどの入学生が未経験者であることを伝えているが、スーパーデザイナー学科への入学希望者にはあえて最初に大変だと伝え覚悟を持って選択してもらっている。一方でファッションクリエイター学科は、多彩なコースを設けることで自分の好きなことを学べるよう、入学しやすい環境を整えている。</p>
<p>4. 学修成果・教育成果</p> <p>【ほぼ適切に対応できている】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 各学科の教育目標、育成人材像に向けてその達成への取り組み及び評価は明確な基準で実施している。 ▪ 2024年度の求職者ベースの内定率は97.1%、前年を2.5%上回る結果となり、就職率の向上が図られている。 ▪ 特にファッション検定への挑戦を積極的に推奨するなど、資格・免許取得率の向上が図られている。コンペの受賞目標も明確に定め、受賞結果についても公表している。 ▪ 顕著な実績を有する卒業生の把握は一定程度行っているが、全卒業生の動向を体系的に把握・管理できていない。 	<p>【課題】</p> <p>顕著な実績を有する卒業生の把握は一定程度行っているが、全卒業生の動向を体系的に把握・管理することは、個人情報観点から企業も情報を出しにくいいため難しい。</p> <p>【改善方法】</p> <p>キャリア支援課が中心となり、「OIFer LINK」を活用して卒業後の卒業生とのつながりを強固にすることで、卒業生の傾向を把握していく。</p>
<p>5. 学生支援</p> <p>【ほぼ適切に対応できている。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 学院内の奨学生制度（給付型）をはじめ、他財団の奨学金制度の応募奨励等を通して、安定して学校生活を送れるよう支援している。 ▪ キャリア支援課を設置し、個別指導や就職支援を積極的に行っている。 ▪ 日々、担任教員や教科担当教員による個別相談に応えている。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 社会人学生のニーズを踏まえた教育環境の整備。 <p>【改善方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 社会人の学び直しへの対応は専門学校に求められている重要な役割の一つととらえ、社会人学生が当学院に求めるニーズの把握、そのために必要な教育環境について中期的に研

<ul style="list-style-type: none"> ▪ 学内及び学外奨学金制度の活用支援を積極的に行い、学生に対する経済的な支援体制は整備している。またカフェテリアの整備、キッチンカーの導入、仕出し弁当の販売等、学生の健康管理に配慮している。 ▪ 退学率低減プロジェクトを立ち上げ、個別対応を強化した結果、2024年度退学率 11.4%(前年比 ▲4pt・▲34名)と改善している。 ▪ 保証人とは、学生支援者会の開催や LINE による連絡体制を整備し、密接な連携体制を構築している。 ▪ 卒業生や教職員、学生、サポーターが共につながる OIFer LINK(オイファーリンク)を運営し、情報提供や卒業生の支援体制を整備している。社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備に関しては十分とはいえない。 	<p>究・整備していく。</p> <p>【質問・意見・回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 学生相談に対する体制とはどのようなものなのか。 ⇒専用窓口としてはキャリア支援課があるが、まだ中身が充実しておらず機能しているとは言いにくい。現状は個別の相談に対して各教員が対応する体制をとっている。 ▪ 在校生クラスルームとはどのようなものなのか。 ⇒グーグルが提供するネットワークで学生と教員をつなぐインフラのようなもの。 ▪ 退学率が 11.4%とは素晴らしいが、具体的にどのような対応をしたのか。 ⇒まず学生支援者の協力を得るため、入学式後の支援者会で 6-7 人に 1 人は退学する現実を伝え、学生に対するサポートをお願いしている。また学生支援者と LINE でつながることで学校行事や時間割を配信して共有している。 <p>一方で、学生へのケアを充実させている。具体的には課題提出時期の重なりを解消する、面談を定期的にする、土曜日に補習をする、長期休暇明けなど退学者が多い時期に早期発見・早期対応に努めるなど、教職員が一丸となって取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ OIFer LINK(オイファーリンク)の運営に対する体制を強化してほしい。 ⇒現担当者を今年からキャリア支援課専属にすることで対応力が高まると考えている。
<p>6. 教育環境</p> <p>【適切に対応できている】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 施設や設備に関しては、職員室や主要教室、カフェテリアや野外のオープンスペースのレノベーションに続き、ロッカールームの改修を終了。 ▪ 年間 30 件以上の産学連携コラボを通しての校外実習体験、協力関係にある企業へのインターンシッ 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 施設の老朽化に伴う管理体制の強化と修繕計画の策定。 <p>【改善方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 総務課が中心となり、教育活動を進める上で必要な設備、教育機器等は定期的に点検、

<p>プ、本校独自の海外研修等、十分な教育体制を整備できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 淀川消防署と連携した防火訓練や教職員向けAED研修等、防災・安全管理に関する体制を整備している。 	<p>整備を行い、支障が出ないよう万全を期す。また中期的な修繕計画を策定し、費用を予算化したうえで整備を進める。</p>
<p>7. 学生の受け入れ体制</p> <p>【適切に対応できている】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 学校案内（パンフレット）を刷新し、よりわかりやすく充実した内容にリニューアルするとともに、HPのリニューアル、オープンキャンパスでの個別相談の強化等を通して、多様な学生の受け入れ態勢を整備している。 ▪ 学校案内では選抜方法を明記し、オープンキャンパスにおいても丁寧に説明を行っており、その上で公正かつ適切な入学者選抜を行っている。 ▪ 学納金については、昨今の経済事情を踏まえて2026年度入学者より学費の値上げを計画しているが、学費改定の経過措置として初年度の年間授業料の一部減免措置を講じている。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 18歳人口減少に対応した、幅広い学生の受け入れ態勢の確立。 <p>【改善方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 2026年4月の校名変更と新たなブランディングにより、当学院の魅力をさらにアピールできる広報戦略に取り組み実行する。 ▪ 入学広報課を中心に、2027年度以降の募集活動にあたり、関西圏での高校ガイダンス強化、関西圏以外の入学希望者の獲得、留学生の拡大、社会人入学生の拡大等少子化に対応した幅広い学生の受け入れ態勢策を立案する。
<p>8. 教育の内部保証システム</p> <p>【適切に対応できている】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 関係法令に基づいた規定の整備・運用・体制をもとに、適正な学校運営を行っている。 ▪ 情報管理諸規定の周知徹底や情報セキュリティ委員会を設置することで厳密に個人情報管理している。 ▪ 年に一度学内で自己評価を実施し、学校関係者評価委員会に諮り、そのうえでHP上に公開している。 ▪ 年度末には全教職員と講師に向けた「当該年度の総括及び今後の課題と次年度の方針」を発表・共有しているほか、毎月1回の学院会議にて、その都度課題を発見・共有し期限を定めた改善に努めている。 ▪ 教育活動に関する情報は、HPや学院案内パンフレットを通して、積極的に公開している。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 現状、特に課題はない。

<p>9. 財務</p> <p>【適切に対応できている】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 現状の財務基盤は十分な内部留保があり、無借金経営で土地建物も有しており、健全な状態といえる。 ▪ 予算及び収支計画については、教職員と共有して執行しているほか、理事会にて当該年度の決算案と次年度予算案について承認を得ている。 ▪ 毎年5月の理事会にて会計監査報告の承認を得ている。 ▪ 財務情報の公開については、HP内で、年度毎の財務諸表及び監事による監査報告書を公開している。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 財務基盤のさらなる強化のための新たな収入源の開発。 <p>【改善方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 学院内にプロジェクトを設置し、ワークショップの開発や卒展資金調達の仕組みづくりなど継続的に取り組んでいく。
<p>10. 社会貢献・地域貢献</p> <p>【ほぼ適切に対応できている】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 社会貢献に関しては、様々な企業コラボを通してアップサイクル提案等、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいる。また地元三国商店街と連携し、三国アートフェスに参加する等、地域貢献にも注力している。 ▪ 学生のボランティア活動に関しては、郊外清掃に積極的に取り組んでいるほか、一般社団法人日本アダプティブファッション協会と協力しアダプティブファッション（障害者向けファッション）の普及に向けた提案活動にも取り組んでいる。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 地域に対するさらなる貢献と地域住民に迷惑をかけない学生指導の徹底。 <p>【今後の改善方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 地元商店街と連携したワークショップの企画提案～運営実施まで、学生が中心となった地域貢献の取り組み事例を増やしていく。 ▪ 現状取り組んでいる校外清掃活動の継続。 ▪ 地元住民に迷惑をかけないマナーの徹底指導。
<p>11. 国際交流</p> <p>【適切に対応できている】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ イタリアの提携校「ポリモーダ校」への留学制度を整備し、積極的に海外への留学を奨励している。 ▪ 海外留学奨学金制度のほか貸付金制度等支援体制にも注力している。 ▪ 学生が安心して海外生活を送れるよう、現地日本人との世話係契約も結びサポート体制を整えている。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 18歳人口の減少に伴う、海外からの留学生の獲得。 <p>【改善方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 入学広報課を中心に、海外留学生向け広報戦略を策定し、2027年募集から強化していく。 ▪ キャリア支援課を中心に、留学生の就職支援を強化するため、留学生の受け入れ先企業の開拓に取り組んでいく。